

YAMAHA

DIGITAL DELAY D1500

取扱説明書



このたびは、ヤマハ・デジタルディレイ・D 1500をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

D 1500を、末永くご愛用いただくため、ご使用前には、必ずこの取扱説明書をよくお読みください。

特 長

- マイクロコンピューターの応用により、多彩なエフェクトデータを16種類メモリーでき、そのセッティングを後で自由にエディットできます。なお使用頻度の高いプログラムが6種類プリセットされています。
- ディレイタイムレンジは1 msecステップで0～1023msec (0秒～1.023秒)、好みのディレイタイムが確実に得られます。
- 20Hz～18kHz ±3 dBの広帯域周波数特性に加え、ゲイナミックレンジも90dBを確保、低域から高域まできわめて滑らかな美しいサウンドを送り出します。
- モジュレーション機能の採用により、フランジング、コーラス、ビブラートなど、さまざまな効果を合成できます。またリピートホールド機能も装備していますので、さらに特殊な使い方ができます。
- INPUTおよびMIX OUTPUTは、音質重視のバランスタイプ。サウンド・レインフォースメント・システムでは、特にその優れた性能を発揮します。
- モジュレーションやバイパスのON/OFF、プログラムチェンジなど、フットスイッチを使用すれば、スピーディーに動作切替が可能です。
- MIDI端子を搭載、MIDI対応のキーボードを接続すると、ボイスキーの切り替えに応じてバンクナンバーが変わりません。
- 19インチ標準ラックマウント仕様。

目 次

ご使用前に.....	2
フロントパネル.....	3
リアパネル.....	5
操作例.....	6
接続例.....	7
仕 様.....	9
ブロックダイアグラム.....	10
データリスト.....	10

ご使用前に

設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、故障の原因となりますのでご注意ください。

- 直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど。
- 温度の特に低い場所。
- 湿気やホコリの多い場所。
- 振動の多い場所。

無理な力を加えない

スイッチやツマミ類に無理な力を加えることは避けてください。

電源コードも大切

コードの断線やショートを防ぐため、電源プラグをコンセントから抜くときは、コードをひっぱらないで必ずプラグを持って抜いてください。外出などで長時間ご使用にならないときは、電源コードのプラグをコンセントからはずしてください。

◎本機は国内仕様です。必ずAC100Vの電源コンセントにプラグを差し込んでお使いください。100V以外(例えば200V)の電源には絶対に接続しないでください。

セットの移動

セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため、他の機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。

接続について

接続の際は、それぞれの電源スイッチをOFFにしてから行ってください。

外装のお手入れには

外装をベンジンやシンナー系の液体で拭いたり、近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布したりすることは避けてください。お手入れは、必ず柔らかい布で乾拭きするようにしてください。

落雷に対する注意

落雷などの恐れがあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜きとってください。

他の電気機器への影響について

本機はデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなど他の電気機器を同時にご使用になりますと、雑音や誤動作の原因となることがあります。ラジオやテレビなどの電気機器から充分離してご使用ください。

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合には実費をいただくこととなりますので、充分ご注意くださいようお願いいたします。

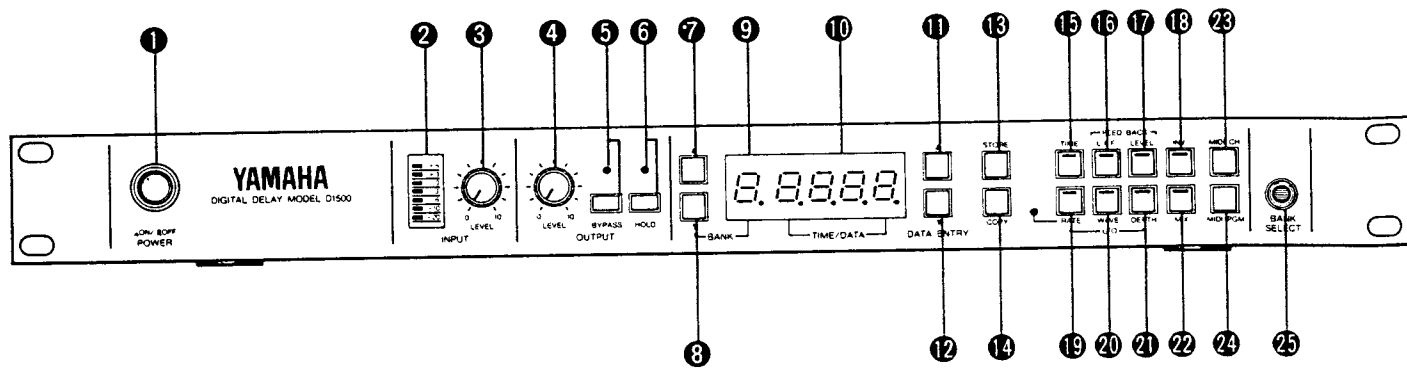
保管してください

この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

バックアップバッテリーについて

- D1500のプログラムデータは、内部のバッテリー(リチウム電池:CR2032T)によって保護されているため、POWERスイッチを"OFF"にしても、データは消えません。
- このバッテリーの寿命は約5年ですが、お早めに交換されることをお勧めします。
- バッテリーの交換の際には、プログラムデータが消えてしまいますので、交換前にデータをメモなどに書き移し、交換後に再びインプットしてください。
- バッテリーの交換時期になりましたら、最寄りのサービスステーションにご相談ください。

フロントパネル



●本機では⑦～⑮の各セクションをマイクロコンピューターで制御しています。
なお、メモリーバンクにメモリーできるのは⑮～⑳の各パラメータです。

①POWERスイッチ

電源スイッチです。電源を“ON”にすると、ディスプレイパネルにデータが表示されます。

②INPUTレベルメーター

入力部の信号(入力信号とフィードバック信号の合計)レベルを表示します。フィードバックレベルを上げた場合のオーバーレベルにご注意ください。

③INPUTボリューム

最適なレベルで入力できるように、②のINPUTレベルメーターを見ながら、このつまみで入力感度を調整します。規定レベル(+4dBまたは-20dB)で送られてきた入力ソースは、つまみの目盛を約“8”にすると、規定レベル(+4dBまたは-20dB)で入力できます。この時、INPUTレベルメーターの“0”までが点灯します。

④OUTPUTボリューム

リアパネルのMIX OUTPUT端子に出力するレベルを、このつまみで調整します。(DELAY OUT端子の出力レベルは変化しません。)目盛約“8”で規定出力レベルが得られます。

⑤BYPASSスイッチ&LED

このスイッチを押すと、LEDが点灯すると共に、入力信号は内部回路をバイパスして、ダイレクトにMIX OUTPUT端子に流れます。この時、DELAY OUT端子の出力信号は、カットされます。スイッチをもう一度押すと、もとの状態に戻ります。

※電源スイッチを“ON”にした場合も、クリックノイズを避けるため、約3秒間バイパスします。また電源OFF時もバイパス状態になっています。

⑥HOLDスイッチ&LED

このスイッチを押すと、音声メモリーのデータの書き換えがストップし、スイッチを押した瞬間に音声メモリー内に取り込まれていた音声信号を、出力し続けます。本機は約1秒間ずつ信号をメモリーするため、1秒周期で連続的にホールドします。スイッチをもう一度押すと、もとの状態に戻ります。また、ホールド中は、LEDが点灯します。

⑦BANKキー(インクリメント)

⑧BANKキー(デクリメント)

本機には、16のメモリーバンク(0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、A、b、C、d、E、F)があり、作成したデータを16種まで、このバンクにメモリーできます。メモリーしたデータは後で呼び出して、そのまま使用できる他、呼び出したデータのパラメータを一部変更(部分修正)して使用することもできます。

また本機には、あらかじめ6種類の代表的なデータ(10ページのデータリスト参照)をプリセットしてありますので、これらのデータも(作成後メモリーした場合と同様に)、呼び出してそのまま使用したり、部分修正して使用できます。

⑦、⑧のBANKキーは、データをメモリーする場合や、メモリーしたデータを呼び出す場合、またプリセットデータを呼び出す場合に使用します。

操作方法

●データをメモリーする場合：

⑩のSTOREキーの項をご覧ください。

●メモリーしたデータ(バンクナンバー“0”～“F”)を呼び出す場合：

⑦のBANKキーを押せば、バンクナンバーが順方向(インクリメント)に変わり、⑧のBANKキーを押せば、バンクナンバーが逆方向(デクリメント)に変わります。呼び出したいバンクナンバーが表示されたら、キーを離せばデータがセットされます。

●プリセットデータ(バンクナンバー“A”～“F”)を呼び出す場合：

(★注意)

プリセットデータを呼び出すと、バンクナンバー“A”～“F”にメモリーされていたデータは、消えてしまいます。

⑭のCOPYキーを押しながら、電源を“ON”にすれば、プリセットデータが“A”～“F”のバンクにセットされます。

⑨BANKナンバーディスプレイ

バンクナンバー“0”～“F”を表示する1桁のLED表示器です。

⑩TIME/DATAディスプレイ

4桁のLED表示器です。

⑮～⑳のファンクションキーの内、現在“ON”されているファンクションのパラメータの値を表示します。

なお、⑦、⑧のBANKキーでバンクナンバーを選択した時、バンクナンバー“F”と“0”の間に“PASS”と表示されますが、これはダイレクト信号のみ出力するモードで、パラメータの値は変更できません。

⑪DATA ENTRYキー(インクリメント)

⑫DATA ENTRYキー(デクリメント)

現在“ON”されているファンクションキー(⑮～⑳)のパラメータを順方向(インクリメント)に変えるキーと、逆方向(デクリメント)に変えるキーです。

キーを1回ずつ区切って押すと、パラメータは1ステップずつ、押し続けると連続的に変わります。

13 STOREキー

作成したデータを、メモリー内に書き込む時に使用するキーです。このキーを押したまま、⑦または⑧のBANKキーを押すと、現在表示中のバンク内に、データが書き込まれます。

14 COPYキー

作成したデータを現在表示中のバンク内に書き込むのをやめ、他のバンク内へ移動する場合や、メモリー済みのデータを他のバンク内にコピー(複写)する場合に使用するキーです。

データの移動およびコピーの方法

- (1) コピーしようとするバンクを選択します。(データの移動をする場合には、(2)の操作から始めます。)
- (2) このキーを押したまま、⑦または⑧のBANKキーを押すと、バンクナンバーだけがインクリメントまたはデクリメントされます。書き込み(移動)先のバンクナンバーが表示されたら、キーを離します。
- (3) ⑬のSTOREキーを押したまま、⑦または⑧のBANKキーを押すと、そのバンク内にデータが書き込まれます。

TIMEキー

このキーを押すと、現在選択中のバンクのディレイタイムが表示されます。ディレイタイムは、0~1023msec(0秒~1.023秒)の範囲内、1msecステップで変更できます。

※電源を"ON"にした時、バンクナンバーを変更した時、⑬、⑭のMIDIファンクションキーを操作した後は、自動的にディレイタイム表示になります。

16 FB L.P.F キー

このキーを押すと、フィードバックループ部に設けられたローパスフィルターのカットオフ周波数が表示されます。カットオフ周波数は、2.5/4/6/8/10/20kHzの中から選択できます。なお、このフィルターは、フィードバックした信号の不必要な高域成分をカットするためのもので、スロープは6dB/octです。

17 FB LEVELキー

このキーを押すとフィードバックレベルが表示されます。フィードバックレベルは、"0"~"99"の範囲内で変更でき、レベルが"0"の時には、1回のディレイ音が得られ、レベルを上げるほど繰り返し回数が増えます。

18 INV キー

FIX OUTPUT端子に出力するディレイ信号の位相を反転させる場合に使用するキーです。

通常は、入力した信号と同相(+)のディレイ音を使用しますが、フランジング効果などを得ようとする場合には、逆相(-)のディレイ音を使用します。ディスプレイには、同相の場合" $\frac{+}{-}$ "が表示され、逆相の場合" $\frac{-}{+}$ "が表示されます。

19 LFO RATEキー & LED

このキーを押すと、本機内蔵の変調(モジュレーション)用LFO(低周波発振器)の発振周波数が表示されます。発振周波数を変更すると、ディレイ音の変調のスピードが変わります。発振周波数の変更範囲は、0.1Hz~15Hzです。(設定可能な周波数は、9ページの仕様をご覧ください。)なお、LFOの発振周波数の周期でインジケータが点滅します。

20 LFO WAVEキー

このキーを押すと内蔵LFOの出力波形が表示されます。本機のLFO波には矩形波(□)と正弦波(〰)があります。波形を変更すると、ディレイ音の音色が著しく変わります。

□: 矩形波(Square Wave)

ピッチの異なったリピート効果など、特殊な効果を与える場合に用います。このモードの時、ディスプレイには" SQU "と表示されます。

〰: 正弦波(Sine Wave)

コーラスやフランジング、トレモロ効果を与える場合に用います。このモードの時、ディスプレイには" SIN "と表示されます。

21 LFO DEPTHキー

このキーを押すと、内蔵LFOによるディレイ音の変調の深さ(変化幅)が表示されます。

設定の範囲は"0"~"99"で、"0"では変調は行なわれず、(この時、⑬のLFO RATEのLEDは消灯します)値が大きくなるほど変化幅が大きくなります。

22 MIXキー

このキーを押すと、ダイレクト信号とディレイ信号のミキシングバランスが表示されます。設定範囲は"0"~"99"で、1ステップでミキシングバランスを設定できます。

"0"の時はダイレクト信号のみ、"99"の時はディレイ信号のみ出力され、"49"では両信号は約3dBダウン、1:1のミキシングバランスになります。

23 MIDI CHキー

MIDIキーボードや他のMIDI機器のエフェクトに本機をご使用になる場合には、このキーを押して、MIDI受信チャンネルを送信チャンネルと合わせてください。本機のMIDIコントロールが可能となります。MIDI受信チャンネルは、CH.1~CH.16の範囲で設定できます。

なお、このモードの時は、MIDI信号を受けつけません。MIDI受信チャンネルを設定した後は、もう一度このキーを押して、通常動作のモードに戻してください。

24 MIDI PGMキー

MIDIコントロールを行ないますと、本機のバンクナンバーを送信側のMIDI機器で切り替えることができます。

MIDIコントロールを行なう場合には、このキーを押して、どのプログラムナンバー(送信側のボイスナンバー)の時には、どのバンクのデータを使用するのか、以下の方法で設定してください。

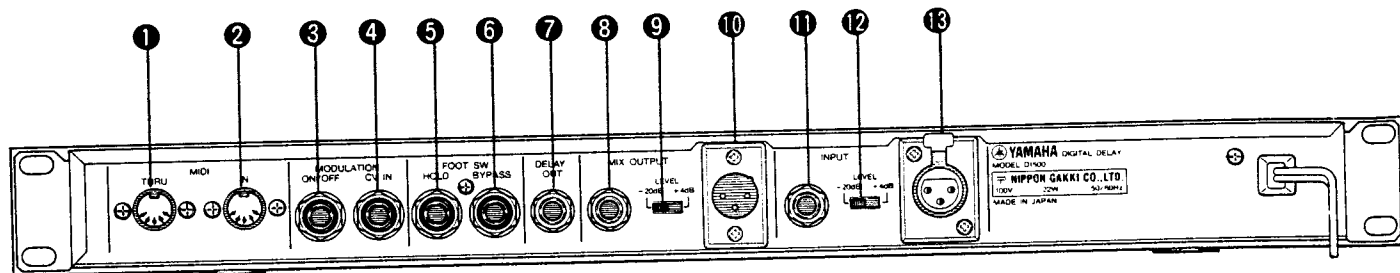
設定の方法

- (1) このキーを押すと、バンクナンバーとMIDIプログラムナンバーの両方が表示されます。(MIDI PGMモードの間は、MIDI信号を受けつけません。)
- (2) ⑪および⑫のDATA ENTRYキーを押して、MIDIコントロールを行なおうとするMIDIプログラムナンバー(ボイスのナンバー、1~128)を表示させます。
- (3) そのプログラムナンバーに使用するバンクデータのナンバー("0"~"P")を⑦および⑧のBANKキーで表示させます。
- (4) これで、1組設定完了です。続けて設定を行なう場合は、(2)と(3)の操作を繰り返します。
- (5) 設定が完了したら、もう一度⑭のMIDI PGMキーを押せば、通常動作モードに戻ります。

25 BANK SELECTジャック

モーメンタリー式フットスイッチ(スイッチを踏んだ瞬間のみ、オープンするタイプ:FC-5または相当品)を接続して、バンクナンバーをインクリメントするための端子です。

リアパネル



① MIDI THRU

MIDI INの受信信号と同じ信号を送出する端子です。送信側のMIDI機器で、もう1台のMIDI機器をコントロールできます。

② MIDI IN

MIDI機器の送信信号を受信する端子です。MIDI用のDINケーブルをご使用ください。
※受信できるメッセージは、プログラムチェンジ(\$Cn)です。他の信号は、全て無視します。
なお、受信メッセージは次のとおりです。
1100 nnnn Program change & Channel number
(nnnn = 0 ~ 15)
Oppp pppp Program number (ppp pppp = 0 ~ 127)

③ MODULATION ON/OFF ジャック

オルタネート式フットスイッチ(スイッチを踏む度に、オン/オフが繰り返されるタイプ:FS-1または相当品)を接続して、モジュレーションのON/OFFを行なうための端子です。モジュレーションが"OFF"の時、フロントパネルのLFO RATEのLEDが消灯します。

④ CV IN ジャック

ディレイタイムを外部機器でコントロールするための端子です。この端子にプラグを差し込むと、自動的に内部LFOは切り離されます。
外部発振器などを使用できます。
外部電圧の印加範囲はDC 0 ~ 10V です。

⑤ HOLD FOOT SW ジャック

オルタネート式フットスイッチ(FS-1または相当品)を接続して、リピートホールドをON/OFFするための端子です。フットスイッチを接続すると、フロントパネルのHOLDスイッチは動かなくなります。

⑥ BYPASS FOOT SW ジャック

オルタネート式フットスイッチ(FS-1または相当品)を接続して、BYPASSのON/OFFを行なうための端子です。フットスイッチを接続すると、フロントパネルのBYPASSスイッチは動かなくなります。

⑦ DELAY OUT ジャック(ホーン・アンバランス型)

ディレイ信号のみ出力するアンバランス(不平衡)型出力端子です。
OUTPUT LEVELボリュームでは出力レベルの調節はできません。
規定出力レベルは+4 dBです。

⑧ MIX OUTPUT ジャック(TRSホーン・バランス型)

⑩ MIX OUTPUT キャンオン(XLR・バランス型)

両端子とも、ダイレクト信号とディレイ信号のミックス信号を出力する電子バランス(平衡)方式の出力端子です。両端子は、内部で並列に接続されています。アンバランス回路は、モノラルホーンプラグで、⑧のMIX OUTPUTジャックに接続してください。

⑨ MIX OUTPUT LEVEL セレクター

MIX OUTPUT端子の規定出力レベルを切り替えるスイッチです。接続する機器の能力にあわせて、-20dB側または+4dB側に切り替えてください。

⑪ INPUT ジャック(TRSホーン・バランス型)

⑬ INPUT キャンオン(XLR・バランス型)

両端子とも、電子バランス方式の入力端子です。両端子は、内部で並列に接続されています。アンバランス信号は、モノラルホーンプラグで、⑪のINPUTジャックに入力してください。

⑫ INPUT LEVEL セレクター

入力ソースのレベルに合わせて、-20dB側または+4dBに切り替えてください。

操作例

ここでは操作の例として、10ページに掲載したサンプルデータのフランジングを取り上げ、このデータを設定して、メモリー内に書き込むことを想定して説明します。

1. データを設定する前の準備

①電源の投入

各機器と本機を確実に接続した後、入力ソース側の機器の電源を“ON”にします。次に本機の電源を“ON”にし、さらに出力側の機器の電源を“ON”にします。

②入力レベルの調整

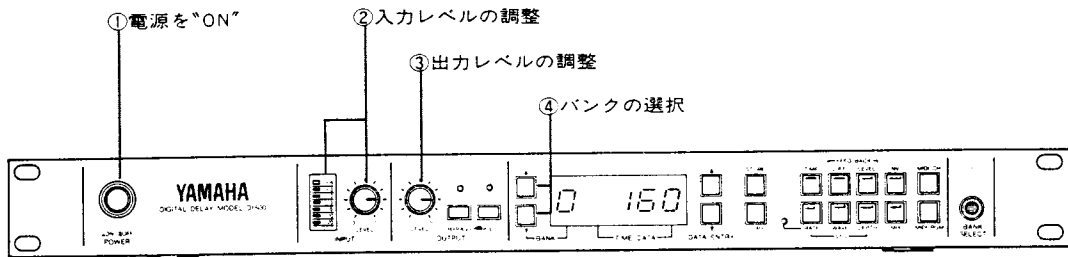
S/Nが良く、歪みのない最適なレベルで入力できるように入力ソース側の機器の出力レベルを調整すると共に、本機のINPUT LEVELセクターとINPUTボリュームで入力レベルを調整します。規定レベル(INPUT LEVELメーターの“+3”が、時々点灯するレベル)で入力したときがS/Nが良く、歪みの少ないバランスのとれた状態です。

③出力レベルの調整

出力側の機器の能率に合わせて、本機のOUTPUT LEVELセクターとOUTPUTボリュームで、出力レベルを調整します。

④バンクの選択

フランジングデータの設定後に、データをメモリーするバンク(必要のないデータがメモリーされているバンク)のナンバーを、BANKキーで表示させます。

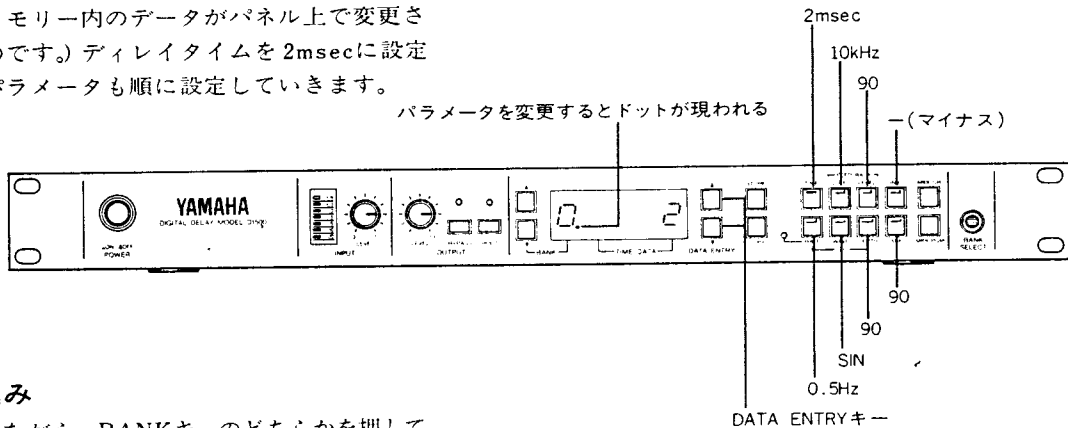


2. データの選定

バンクを選択すると、そのバンク内のデータが呼び出され、ディレイタイムが表示されます。

この状態でDATA ENTRYキーを押すと、ディレイタイムがインクリメントまたはデクリメントします。ディレイタイムを、2msecに設定してください。(ディレイタイムを変更すると同時に、バンクナンバーの右下部にドットが現われます。これは、メモリー内のデータがパネル上で変更されたことを示すものです。)ディレイタイムを2msecに設定した後、その他のパラメータも順に設定していきます。

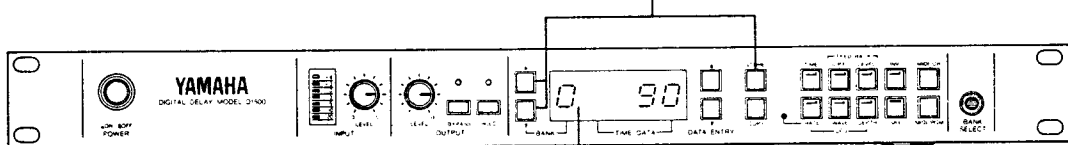
FB L.P.Fキーを押して、DATA ENTRYキーでカットオフ周波数を10kHzに設定し、FB LEVELキーを押して、DATA ENTRYキーでFBレベルを90に設定するといった要領で、下の図のように全てのパラメータを設定してください。全てのパラメータを設定すると、フランジングされた音が出力します。



3. データの書き込み

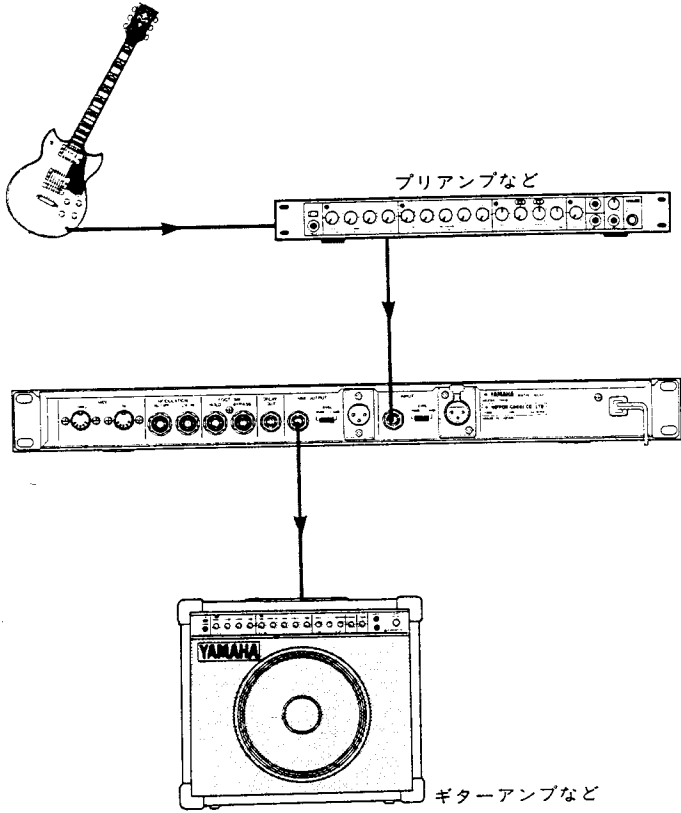
STOREキーを押しながら、BANKキーのどちらかを押してください。バンクナンバーの右下部のドットが消えて、メモリー内にデータが書き込まれます。

STOREキーを押しながら、BANKキーを押す。

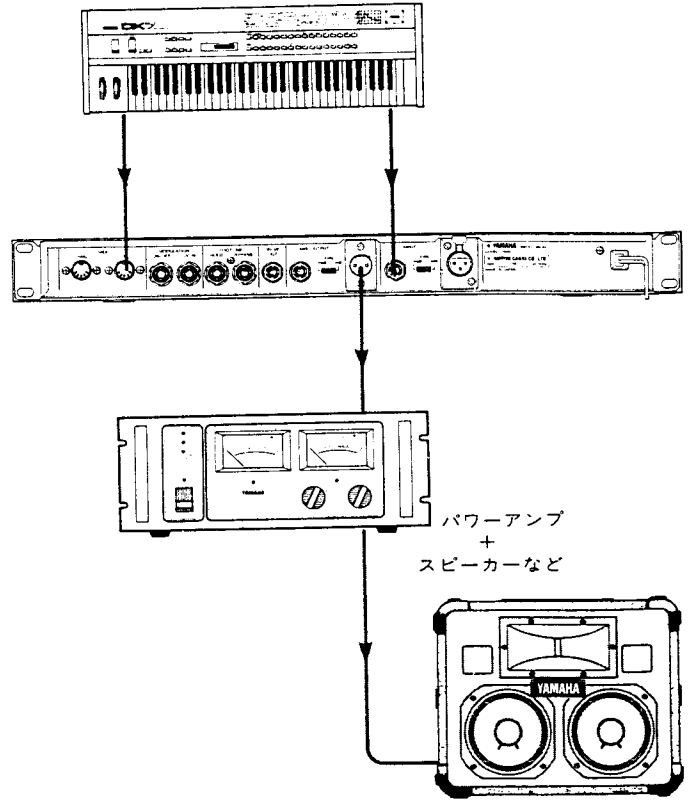


接続例

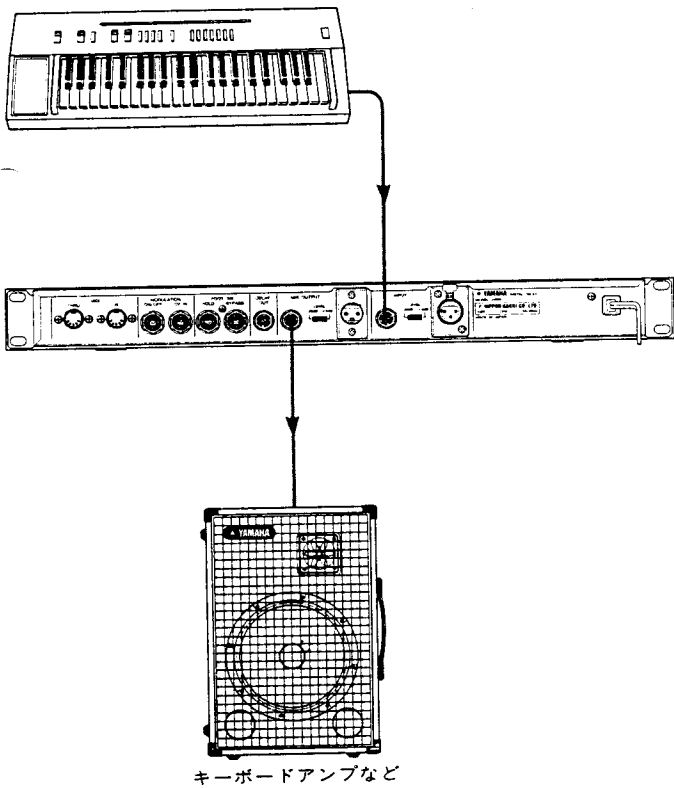
●E・ギターの操作



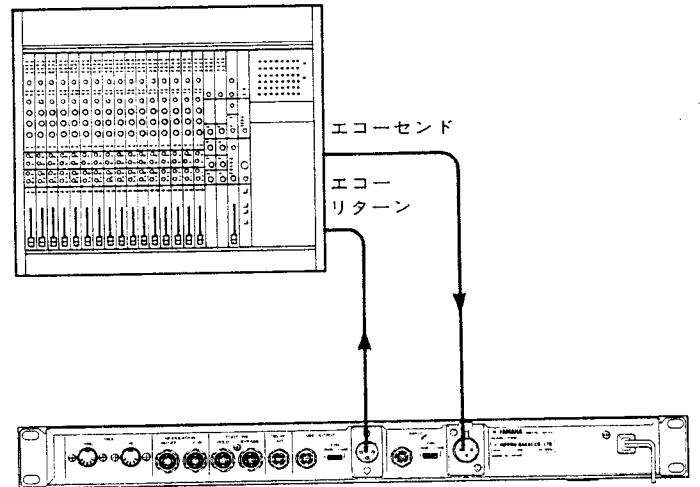
●MIDIキーボードの接続



●E・キーボードの接続

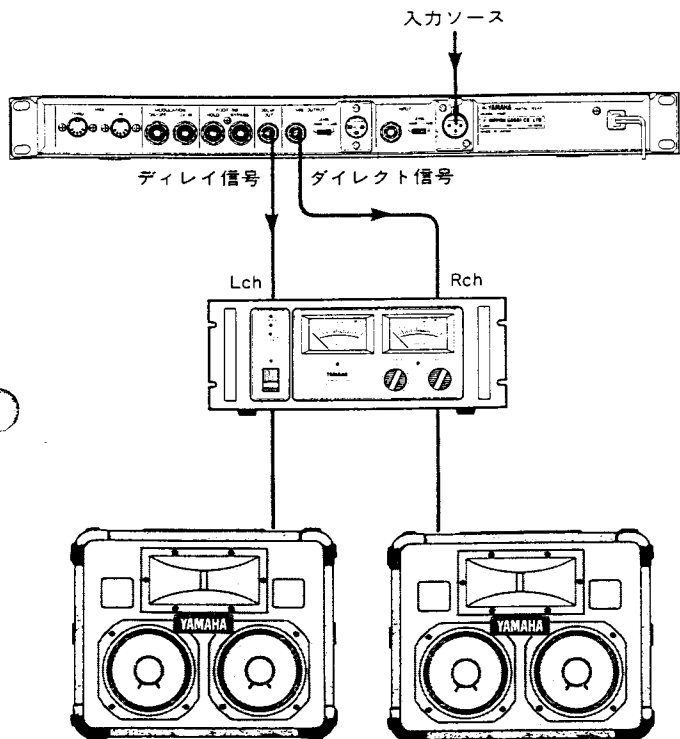


●ミキサーとの接続

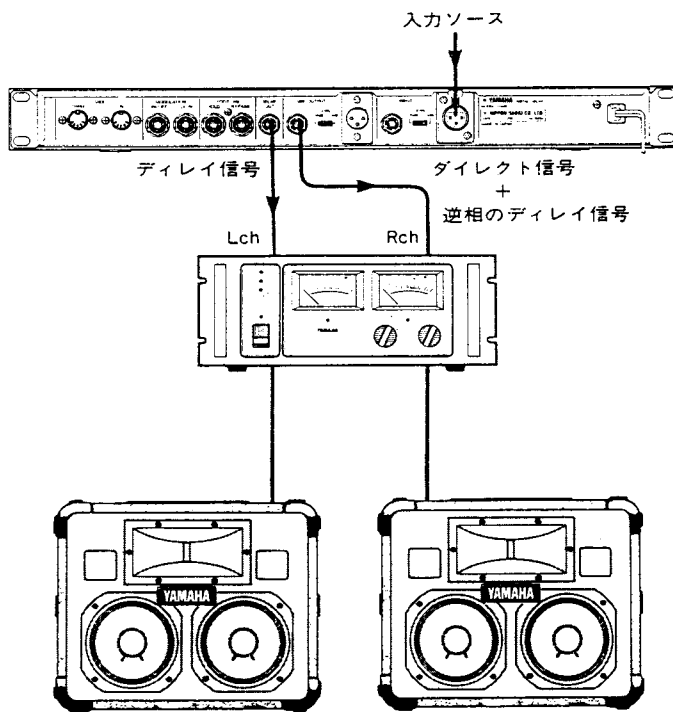


●ステレオ感を生かす接続

1) DELAY OUTからディレイ信号、MIX OUTPUTからは
ダイレクト信号のみ取り出すと、音は右から左に流れます。

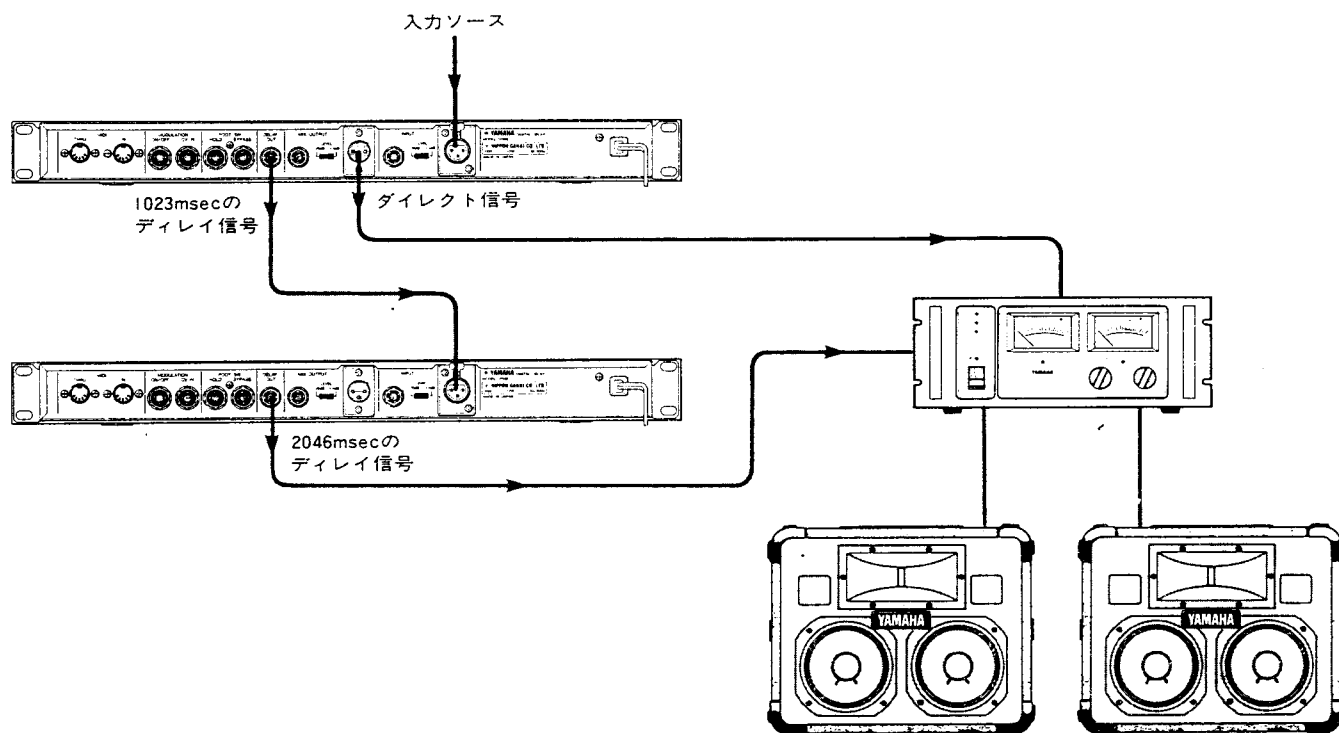


2) DELAY OUTからディレイ信号、MIX OUTPUTからは
ダイレクト信号と逆相のディレイ信号のミックス信号を取り
出すと、広がりのあるサウンドが得られます。



●D 1500を2台使用した接続

※最高で2046msecまでのディレイが得られます。



仕様

ディレイタイム	0～1023msec(1msecステップ)		
周波数特性	Direct	20Hz～20kHz	+1、-2 dB
	Delay	20Hz～18kHz	+3、-3 dB
全高調波歪率	Direct	0.008%	
	Delay	0.08%	
ダイナミックレンジ	90dB		
INPUT			
規定入力レベル	+4 dB / -20dB		
入力インピーダンス	20k Ω		
方式	トランスレス・バランス入力		
端子数	XLRタイプ×1、ホーン×1		
MIX OUTPUT			
規定出力レベル	+4 dB / -20dB		
出力インピーダンス	100 Ω		
方式	トランスレス・バランス出力		
端子数	XLRタイプ×1、ホーン×1		
DELAY OUT			
規定出力レベル	+4 dB		
出力インピーダンス	100 Ω		
方式	アンバランス出力		
端子数	ホーン×1		
LFO			
DEPTH	0～99		
RATE	0.1/0.2/0.3/0.4/0.5/0.6/0.7/0.8/0.9		
	1.0/1.1/1.2/1.3/1.4/1.5/1.6/1.7/1.8		
	2.0/2.2/2.4/2.6/2.8/3.0/3.2/3.4/3.7		
	4.0/4.5/5.0/5.5/6.0/6.5/7.0/7.5/8.0		
	8.5/9.0/10.0/11.0/12.0/13.0/14.0/15.0		
	(単位:Hz)		
	AVE 矩形波(□)、正弦波(〰)		

CV IN電圧範囲	0～+10V	
MIDI ファンクション	MIDI受信チャンネルの変更、ディレイ BANKとMIDIプログラムナンバーの変更	
BANK数	全17プログラム(0～9、A、b、C、d、E、F、PASS) なお、出荷時に6種のプログラムがA～Fにプリセット済	
バッテリー・バックアップ・データ		
	全BANKデータ、BANKナンバー & ワーキング・データ、MIDIチャンネルナンバー、MIDIプログラム & BANKデータ	
定格電源	AC100V 50/60Hz	
消費電力	22W	
寸法(W×H×D)	480mm×45.2mm×368.5mm (19インチ標準ラックマウント仕様)	
重量	5.2kg	

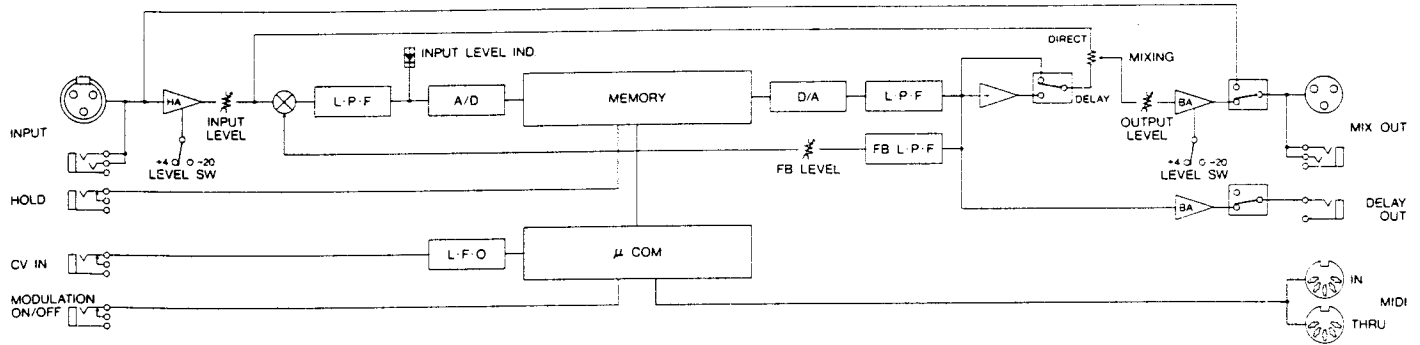
● 0dB=0.775Vr.m.s.

● 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

ブロックダイアグラム / データリスト

■ブロックダイアグラム

★本機の天板に印刷されているものと同じです。



■データリスト

●プリセットデータ

BANK NO.	DATA TITLE	TIME	FB L.P.F	FB LEVEL	INV	LFO RATE	LFO WAVE	LFO DEPTH	MIX
A	Solo Lead	168	10	35	+	2.6	SIN	0	32
b	Twinkle Star	141	6	84	+	1.3	SIN	1	48
C	Long Delay	246	10	72	+	8.0	SIN	3	49
d	Short Delay	94	20	20	-	0.1	SQU	0	46
e	Chorus for E. PF	30	8	0	+	0.7	SIN	21	50
F	Backing	125	20	42	-	1.6	SIN	1	33

●サンプルデータ

DATA TITLE	TIME	FB L.P.F	FB LEVEL	INV	LFO RATE	LFO WAVE	LFO DEPTH	MIX
Long Delay	470	8	2	+	0.1	SIN	0	16
Feed Back ECHO	306	4	22	-	0.1	SIN	0	11
Chorus	1	6	25	+	5.0	SIN	60	50
Doubling	35	20	0	+	0.8	SIN	0	35
Flanging	2	10	90	-	0.5	SIN	90	90

サービスについて

本機の保証期間は、保証書によりご購入から1ヶ年です。(現金、ローン、月賦などによる区別はございません。) また保証は日本国内にてのみ有効といたします。

●保証書

保証書をお受け取りのときは、お客さまのご住所、お名前、お買い上げ月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効になりますので、くれぐれもご注意ください。

●保証書は大切にしましょう!

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客さまに、ご購入の日から向う1カ年間の無償サービスをお約束申しあげますが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただきますこととなります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮のうえで保管してください。また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種の違いや、サービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

●保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買上げ店にご持参頂きますと、技術者が修理・調整致します。この際必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合にはサービス料金を頂戴く場合もあります。又お買上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買上げ店あるいは日本楽器電音サービスステーションにご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよう手続き致します。

満1カ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスさせていただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低8年となっています。

そのほかご不明の点などございましたら、お客様ご相談窓口までお問い合わせください。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

修理受付および修理品お預り	
東京電音サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL (044) 434-3100
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 (シルバーホールビル2F) TEL (0252) 43-4321
大阪電音サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 (千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸亀町8-7 (日本楽器高松店内) TEL (0878) 51-7777 (0878) 22-3045
名古屋電音サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 (日本楽器名古屋流通センター) TEL (052) 652-2230
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2134
北海道電音サービスセンター	〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市卸町5丁目-7 (卸商共同配送センター3F) TEL (0222) 96-0249
広島電音サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区紙屋町西原2205-3 TEL (082) 874-3787
浜松電音サービスセンター	〒432 浜松市東伊場2-13-12 TEL (0534) 56-9211
本社	
営業技術課電音サービスセンター	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL (0534) 65-1111

*住所及び電話番号は変更になる場合があります。

日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL. 0534(65)1111
東京支店	〒104 東京都中央区銀座7-11-3/矢島ビル6F TEL. 03(574)8592
銀座店	〒104 東京都中央区銀座7-9-14 TEL. 03(572)3131
渋谷店	〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-7/新大栄ビル内 TEL. 03(476)5441
池袋店	〒171 東京都豊島区南池袋1-24-2 TEL. 03(981)5271
横浜店	〒220 横浜市西区南幸2-15-13 TEL. 045(311)1201
大阪支店	〒542 大阪市南区南船場3-12-9/ 心斎橋プラザビル東館(8-9館) TEL. 06(251)1111
心斎橋店	〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39 TEL. 06(211)8331
神戸店	〒651 神戸市中央区元町通2-7-3 TEL. 078(321)1191
高松店	〒760 高松市丸亀町8-7 TEL. 0878(51)7777・(22)3045
名古屋支店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL. 052(201)5141

名古屋店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL. 052(201)5154
九州支店	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092(472)2151
福岡店	〒810 福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内 TEL. 092(721)7621
北海道支店	〒064 札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター TEL. 011(512)6111
札幌店	〒064 札幌市中央区南十条西1丁目4番地/ヤマハセンター TEL. 011(512)6124
仙台支店	〒980 仙台市大町2-2-10 TEL. 0222(22)6141
仙台店	〒980 仙台市一番町2-6-5 TEL. 0222(27)8516
広島支店	〒730 広島市中区紙屋町1-1-18 TEL. 082(248)4511
広島店	〒730 広島市中区紙屋町1-1-18 TEL. 082(248)4511
浜松支店	〒430 浜松市鍛冶町321-6 TEL. 0534(54)4116
浜松店	〒430 浜松市鍛冶町321-6 TEL. 0534(54)4325



YAMAHA

BWgY, b. BGR